

ビアンケ
脈派診断

診断の背景

ビアンケの脈波診断機能は、中国伝統医学の独自の診断法である十二経絡の検査方法、すなわち十二経絡の中から模範となる、または検査しやすい新興または比較的新興の脈管を選択する方法と、ビアンケ独自のインチ開き（手首の脈）の脈診を基本としています。

このアプローチについての詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC3942893/>



VYVO脈波解析

自分の臓器の継続的な状態を著作権 VYVO™ 2020 生活習慣を改善し、より健康的な生活を送るために必要なことを理解するためのサポートをします。

脈波診断は、高価な医療機器を持たない人でも、VYVOデバイスを使えば、機能的な健康状態を独立してコントロールすることができます。

分析は心房細動測定に基づいて行われます。心房細動検出がアクティブな場合のみ、3時間ごとに新しい脈波レポートが計算されます。

レポートの処理に失敗した場合は、測定値がないか、装置による検出が不完全または部分的に行われた場合に発生します。

正しい分析処理とレポート作成を確実に行うためには、デバイスを正しく継続的に装着し、心房細動の検出がアクティブでなければならない。

この分析を通じて、ユーザーは自分の健康評価のレベル、生体の適応性、ストレスのレベル、バランス消費/エネルギー回復のレベルを知ることができるだけでなく、生活の質を向上させ、予期せぬ健康問題のリスクを減らすために重点的に取り組むべき領域を見つけることができます。

アプリ内のアルゴリズムと得られた結果の解釈は、多数の科学的研究と勧告欧州心臓病学会とペーシングと電気生理学の北米学会に基づいています。

心臓で発生する電気的および機械的現象は、脈波の外部徴候をシミュレートします。数学的手法の助けを借りて、機能は心臓のリズムの言語を分析します。これは、私たちは、個々の臓器、身体のシステム、および全体としての人の状態の両方の機能のパフォーマンスを評価することができます。

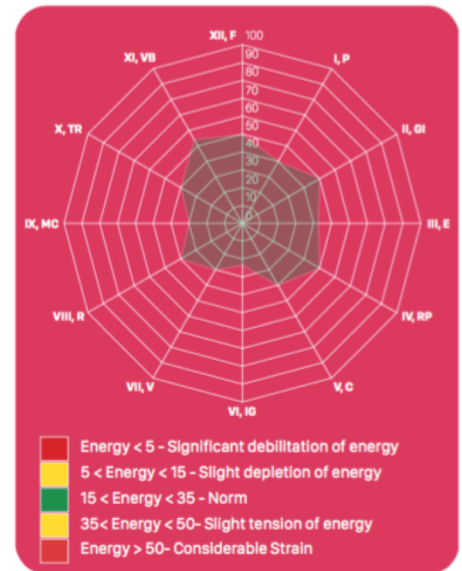
1. 経絡分析

経絡システムは、チャネルネットワークとも呼ばれ、生命エネルギーが参照され、"気"の流れとして知られている経路についての伝統的な中国医学の概念です。

用語「経絡」は、中国医学の全体的なエネルギー分布システムを説明し、体の本質的なサブスタンス（気、血液、体液）が全身に浸透する方法を説明するのに役立ちます。

12 の標準的な経絡は、主な経絡とも呼ばれ、陰と陽のグループに分かれています。

各経絡のエネルギーは、関連する臓器システムの活動の状態を示し、病気を識別し、治療するのに役立ちます。



1.1. 経絡分析ノート



Meridian of Lungs (I, P)

肺経

肺、皮膚表面、中枢神経系、末梢神経系が含まれます。つまり、人間が体のガスや水を外部環境と交換するシステムを "肺" という言葉で表しています。物理的な器官である肺は、酸素の消費と二酸化炭素の排出、そして体内からの水分の排出を行っています。水・塩分代謝の調節の重要な部分は、皮膚表面の発汗によって行われます。皮膚表面はまた、環境の外部からの影響からの保護を決定します。外部環境との接続と異なる代謝のプロセスのろ過を提供するこの複雑で広範なシステムを管理するために、概念「肺」は、ここで中枢神経系と末梢神経系を含む。身体と外部環境の相互関係の制御：神経系のちょうど特定の機能がここに含まれています。それはここでは機能的な特徴に基づいて分類について話されていることを覚えておく必要がありますが、形態学的なものではありません。それに対応して、神経系はすべての "12の器官" に含まれていますが、神経系の異なる機能的なタスクは、それぞれの別々のケースで意味されています。



Meridian of the large intestine (II, GI)

大腸経

老廃物の運搬を担っており、水分の吸収にも欠かせない役割を果たしています。"大腸" は "肺" と対になっている臓器です。肺で生命エネルギーの循環が正常に行われていれば、大腸も正常に機能して、良好な空の状態になります。肺の生命エネルギーの循環が乱れると、息を吐くときに困難になります。大腸が満たされすぎて熱を持ち、便秘を伴う状態が現れると、次のような状態になることがあります：「肺」のエネルギーが下がらなくなり、呼吸困難を引き起こします。



Meridian of the stomach (III, E)

胃の経絡

食べ物の消費や消化を管理しています。"脾臓"と対になっている器官です。消化を司る「脾」と「胃」の役割の違いを理解するためには、「脾」は「陰」の臓器であり、「胃」は「陽」の臓器であると考えする必要があります。消化の過程は弁証法の原理に基づいて二つの部分に分けられ、食物を粉碎して消化する「陽」の過程は「胃」の機能であり、栄養素を吸収する「陰」の過程は「脾」の機能である。これら2つのプロセスのバランスをサポートすることで、質の高い消化を実現します。



Meridian of spleen and pancreas (IV, RP)

脾臓と膵臓の経絡

脾臓の機能（機能系としての）は、食物や水分の吸収と体内の移動のすべての過程を制御し、血液や筋肉も制御しています。もちろん、このような広範な機能は、生理器官としての脾臓を超えています。血流を止める機能は、主に血液をコントロールすることを意味しています。この機能が乱れると、さまざまな出血が起こります。筋肉と四肢の機能との関係は、筋肉への栄養分の輸送機能から明らかになります。筋肉に栄養分が送られていれば、筋肉は弾力性と強度を維持し、栄養分の輸送が乱れると筋肉は弱くなります。



Meridian of heart (V, C)

心臓の経絡

血液の輸送を担っています。しかし、「心」の機能はこの項目に限定されるものではありません。伝統的な中国医学の考え方では、「心」は多くの精神的・精神的な機能を発揮するための主役であり、現代西洋医学の考え方では中枢神経系の活動に含まれています。心のもう一つの機能は発汗です。漢方には次のような法則があります。"血と汗は同じ起源を持つ"というルールがあります。"汗が足りないとは血が出ないことを意味し、血が足りないとは汗が出ないことを意味します。血の消費は、過度の発汗時に起こる。"特に、病気の場合は、汗をかきすぎた結果、血液が過剰に消費されてしまった場合、心拍数が逸脱しているという症状が出てきます。



Meridian of the small intestine (VI, IG)

小腸の経絡

中医学の概念では、"小腸"は物質の取得と変換を担当しています。胃から栄養分を得て処理し、同時に透明な物質と濁った物質の分割を行います。透明な部分（栄養物質）は吸収され、脾臓を通して全身に広がり、栄養を与えます。泥状になったものは大腸へ。代謝液から残った水性の消化液は、下の方の膀胱を通して尿となります。「心臓」と「小腸」は対になっている臓器です。心臓の経絡は心臓から出て小腸へ。小腸の経絡は心臓から出て、心臓とつながっています。この内部のつながりが熱の動きをしています。この機能が逸脱すると病的な状態になります。例えば、熱の動きが小腸に下がる場合、体液を蒸発させます。それはまれな排尿、および熱い蒸発を与える排尿のバラ色につながる。大腸の熱の心臓への運動は、それを「シンジ」することがあります。この場合は、口の中や舌の上に興奮状態、のぼせ、泡が出ている状態になります。



Meridian of the bladder (VII, V)

膀胱の経絡

腎臓から運ばれてきた尿の老廃液を貯めて排泄する役割を担っています。臓器としての膀胱はこの機能しかありませんが、エネルギー系としての膀胱は自律神経の機能やバランスと密接に関係しています。

それは、膀胱のエネルギー経路が、脊柱の両側に平行に流れる2本の枝が、頭から体の後ろ側に沿って走っているからです。膀胱の経路のこれらの4つの枝は、交感神経と副交感神経の自律神経幹に直接影響を与え、その現代生活の状態は、交感神経を過剰に活性化させ、背骨とその周辺部に沿って緊張と痛みを引き起こします。



Meridian of kidneys (VIII, R)

腎臓の経路

中医学の考え方によると、「腎」の機能は、まず第一に骨髓、脊髄、脳の生産です。「腎」は骨を管理し、同時に生殖の源でもあります。生殖機能を管理し、体液の交換を担っています。漢方では、尿の滞留や排泄は膀胱だけでなく、「腎」にも依存しているとされています。「腎」に十分なエネルギーがあれば、「膀胱」は尿を完全に保持し、正常に開閉することができます。これは、体内の液体の交換が正常に行われている状態です。「腎」が十分なエネルギー量を持っていないと、「膀胱」は尿を保持する能力を失います。膀胱の開閉機能が低下し、排尿をコントロールできなくなったり、過剰に排尿したり、意図しない排尿をしたりします。



Meridian of the pericardium (IX, MC)

心膜の経路

実は心臓の外嚢です。「心膜」は心臓と胸部の他の臓器を隔てています。中医学の考え方では、心臓の保護機能に加えて、血管を通した血液の循環を管理しています。「心嚢」は「心臓」とともに、中枢神経系、精神活動、精神状態に影響を与えます。



Meridian of three heaters (X, TR)

三温の経路

上部、下部、および中央のヒーターは、「三温」の概念の下で意味されます。「上部ヒーター」は食道の上にあり、「心臓」や「肺」などの臓器が含まれています。「ミドルヒーター」は、お腹とほぼ同じ高さの上腹部にあり、「脾臓」と「胃」が含まれています。「下腹部のおへそ」の下にある「のは、腎臓や肝臓、「小腸」、「大腸」、「尿道膀胱」などがあります。「三温」はすべての内臓の働きを管理するものであり、現代医学の立場から言えば、「三温」は内分泌系のようなものである。しかし、これは生理学的なマッチングに過ぎず、中医学に存在するエネルギーの循環についての全体の概念を含んでいません。



Meridian of the gallbladder (XI, VB)

胆嚢の経路

漢方の考え方によると、胆嚢は胆汁の貯蔵と消化管への放出という二重の機能を持っています。「胆」のエネルギーは人の精神状態と関係しています。漢方では、不眠症、激しすぎる夢、心臓の鼓動などの心の病や心身症は、胆嚢を考慮して治療されることが多いです。「胆嚢」は「胃」「脾」と密接な関係があり、それらが消化機能を発揮する際にそれらを支えています。



Meridian of the liver (XII, F)

肝臓の経路

中医学の概念に従って、肝臓は次の機能を行います。1. 血の蓄積と調節。2. 体内の異なる物質の輸送と排泄。

3. 臍の制御。中国の伝統医学によると、「肝臓は血液を蓄積し、心臓は血液を運搬する。人に動きがあれば、血液は血管に流れる。人が休めば、血液は肝臓に戻って流れます。中国の考え方では、このような血液の重要な機能である濾過は、肝臓の秩序に対する愛情と説明されています。何よりも、肝臓の機能不全は、心気症や消化不良に現れます。中医学では次のルールが有効である：人の精神状態は心だけで管理されるのではなく、"肝"と密接な関係があります。肝の機能不全はうつ病につながる。中国人は"肝は秩序を愛し、悲しみや悲しみを愛さない"、"激しいストレスは肝に害を及ぼす"と考えています。肝のもう一つの働きとして、臍の管理があります。それは次のように説明されています。"臍は肝臓に溜まっている血液で栄養を得ています。肝臓に十分な量の血液がないと、臍に栄養が行き渡りません。

2. 生物エネルギー



生体エネルギーの価値観は、状態を把握するのに役立ちます。

- エネルギー < 300 ms2 - エネルギーの余力が枯渇する（「生命力」の回復、仕事と休息の最適なレジームの選択、主な疾患の発症の補償が必要）。
- 300 ms2 < エネルギー < 700 ms2 - 蓄えられたエネルギーが本質的に減少する（創造力・作業能力の低下、疾病時の回復に必要な時間・資源が大幅に増加する）。
- 700 ms2 < エネルギー < 1,500 ms2 - エネルギーの予備軍が減少する（作業能力の低下）。
- 1,500 ms2 < エネルギー < 6,000 ms2 - エネルギー予備量が正常範囲内（機能の最適な状態）。
- エネルギー > 6,000 ms2 - エネルギー予備量が過剰（生命力の消費の本質的なアンバランス、植物機能障害の状態）。

分析はスペクトル（TP）の総力の絶対値に基づいて特徴付けです。スペクトル全体の総力（TP）は、身体の一般的な適応能力、生命力の予備を反映しています。

スペクトル全体の総力（TP）の値が高い人は、TP の値が低い人よりも常により弾力性がある（タフである）わけではない。

しかし、同じ人の値は比較されるべきである：TP の値が昨日より今日の方が高ければ、それは彼らがよく休んで力を得たことを意味する。

しかし、TP の値が低くなっている場合は、その日は良い日ではないという評価の意味である。

3. 代謝過程と異化過程のバランス

同化過程（アナボリズム）とは、体内での新しい構造物やサブスタンスの形成、筋肉を含む組織の更新や成長を意味します。

異化過程（異化）とは、同化過程とは逆に、筋肉を含む物質や構造物を破壊する過程を指します。どちらの代謝状態も異なる目的を果たし、生命に必要なものですが、私たちの多くは必要以上に異化の状態を経験していることが多いようです。この2つのプロセスのバランス（BAC）を知ることで、体の状態を把握することができます。



- BAC < 33% - 体内で異化のプロセスが優勢。
- 33% < BAC < 66% - 異化と同化の平衡がある。体内のプロセス。
- BAC > 66% - 体内で同化のプロセスが優勢になります。

4. ストレス指数

この分析により、調節システムの緊張の指標を定義することができます。ストレスは、光電式胸像（PPG）から評価することができます。PPG 信号には、心筋機能、循環系、血流、およびその構成要素、血流（体温と連動している）、血圧とその変動性、自律神経系（ANS は、振幅の変動性と拍間隔の変動性を通じて、中枢性および局所性の両方）、呼吸機能に関する情報が含まれています。



- SI < 30 の場合、ストレス制限系の活動が優勢になる傾向のある表現された苦痛の状態がある。
- 30 < SI < 60 の場合、ストレス制限系の活動が優勢になる傾向のある代償的苦痛の状態がある。
- 60 < SI < 120 であれば、eustress（生理的調節の位置からの適応の最適化）の状態がある。
- 120 < SI < 200 の場合、ストレスを実現する系の活動が亢進する傾向を持つ適応機構の緊張状態がある。
- SI > 200 の場合、ストレス実現系の過剰な活動により、システムや臓器に悪影響を及ぼす可能性のある発現ストレスの状態がある。

法的免責事項

診断結果は個人の評価のみを目的としたものであり、臨床診断として使用することはできません。診断は医療従事者または理学療法士のみが行うことができます。

一部の測定には、Android OS 4.3以降、Apple OS ver. 10.0以降が必要です。

特に指定がない限り、VYVOのデバイスおよび関連サービスは医療機器ではなく、いかなる疾患の診断、治療、治癒、予防を目的としたものではありません。

精度に関しては、VYVOは特定のウェルネス情報を合理的に可能な限り正確に追跡するための製品やサービスを開発しています。VYVO の製品やサービスの精度は、医療機器や科学的な測定機器と同等のものを意図したものではありません。

VYVOの製品やサービスを使用することで影響を受ける可能性のある持病をお持ちの方は、使用前に医師にご相談ください。

国によっては機能が制限されている場合があります。

vyvo™ making
life wonderful



vyvo.com